

トップメッセージ

自然の恵みを大切に人と自然のより良い関係づくりをすすめています。

宝酒造の事業は、水や穀物などの自然の恵みと微生物の発酵という自然の働きを得て成り立っています。豊かな自然環境が保たれることは、当社が存続するうえで重要なことであり、このため、当社の企業精神には自然環境に配慮する気持ちが受け継がれています。またその一方で、商品が消費されたあとに発生する空容器は、社会に大きな環境負荷を与えています。そのような理由から、当社との関わりが深い「自然保護」と「空容器問題」への取り組みを環境活動の2本柱と位置付けています。

当社の自然保護への取り組みは、1979(昭和54)年のサケを川に戻す市民活動を支援したカムバック・サーモンキャンペーンに始まり、企業の自然保護活動支援の先駆けとなりました。1985(昭和60)年には公益信託タカラ・ハーモニストファンドを設立し、30年にわたって継続的に自然保護活動・研究の支援を行っています。また、2004(平成16)年より開催している宝酒造「田んぼの学校」は、次世代を担う子供たちに、自然の恵みの大切さやいのちのつながりを学んでもらう環境教育活動として取り組んでいます。

一方、当社が事業を展開するうえで避けて通れない空容器問題については、一般的なりデュース、リユース、リサイクルの3Rに、発生そのものを回避するリフューズを加えた4Rの考えで取り組んでいます。国内初のステイオン

タブの採用や中身だけをご購入いただく焼酎のはかり売りの展開、あらゆる容器の軽量化等、幅広い取り組みを長年にわたり続けています。こうした活動が評価され、2014(平成26)年には3R推進功労者等表彰において「内閣総理大臣賞」をいただきました。

この緑字企業報告書は、このような環境に関する取り組みに加え、お客様の視点からの品質管理や安全・安心への取り組み、さらには社会の視点、社員の視点からの取り組み等をご紹介したCSR報告書です。また、特集ページでは、世界で広がる日本の食文化をテーマに、海外で清酒などを製造・販売する「海外酒類事業」と現地の日本食レストランに日本食材等を提供する「海外日本食材卸事業」についてとりあげています。特に30年以上前から米国で行っている、現地の米・米麴・水を使用したこだわりの酒づくりと、日本の食文化を世界に発信する取り組みについてスポットをあてご紹介しています。

この報告書によって、当社の考え方と活動をご理解いただき、またご意見を承ることができれば幸いです。

宝酒造株式会社
取締役社長

市不敏男



企業理念

自然との調和を大切に、発酵やバイオの技術を通じて
人間の健康的な暮らしと生き生きとした社会づくりに貢献します。

行動規準

消費者のいきいきは、私のいきいき —すべての行動は消費者の視点からスタートします—

1. パートナーと協力し、自ら率先して仕事の質を高めます。
2. いつも「なぜ?」と問いかけ、変革をすすめます。
3. 自信と誇りにあふれるプロをめざし、スキルアップに努めます。
4. ユニークな発想で、摩擦を恐れず議論します。
5. 情報感度を磨き、目標に向かって迅速にチャレンジします。
6. 自己の言動に責任をもち、法・社会倫理を守り、自然との共生に取り組みます。